

第2回「昭和上條医療賞」(平成27年度顕彰)募集要項

1. 顕彰の趣旨

本顕彰は、医学・医療分野の教育及び地域保健医療において創造的かつ先駆的諸活動を行い、大きな成果を挙げた実践者又は実践グループを顕彰することを目的とします。

2. 顕彰対象

(1) 医療人育成部門

医療人育成において優れた成果を挙げた独創的・革新的な活動

(2) 地域保健医療貢献部門

地域保健医療の質向上および国民の健康増進に貢献した幅広い地域の活動

(3) 医療技術部門

独創的技術を通じて医療分野の発展に寄与し、社会に貢献した活動

3. 表彰

受賞者は全体で6件以内とし、表彰します。(副賞総額300万円)

4. 顕彰対象となる諸活動

(1) 医療人育成部門

- ① 医療機関において、社会や患者の求める医療のさまざまな分野のニーズに対応する能力を身に付けた医療人の育成プログラムなどを構築した。
- ② 地域医療が求める多様なニーズに対応する能力を修得し、地域で積極的に活動する医療人の育成プログラムなどを構築した。

(2) 地域保健医療貢献部門

- ① 地域住民に対する診療・治療・ケアなどの様々な領域で、先進的で効果的な医療を実践、あるいは推進し、地域医療に貢献した。
- ② 疾病予防などの公衆衛生、生活支援などに積極的に従事して優れた功績を挙げ、地域住民の保健衛生の向上に著しく貢献した。
- ③ 地域において多職種連携のチーム医療を積極的に実践し、あるいは行政、保健、福祉、介護、教育、文化などのスタッフと連携・協力し、地域全体で包括的な医療システムなどの住民サービスを提供することで、質の高い生活を送れるよう活動した。

(3) 医療技術部門

- ① 医療分野において、疾病の予防、診断、治療、ケア、予後の予測などに関する新たな発見や革新的な技術の開発につながる飛躍的な科学技術の発展に寄与し、医療と社会に大きく貢献した。
- ② 独創的技術を通じて、従来の医療では解決困難な問題の改善に寄与し、生活の質向上に貢献した。

5. 応募方法

「顕彰申請書」と「推薦書」を当財団事務局に提出してください。

※推薦者は関係領域の学識経験者とします。

※活動内容に関する資料を添付してください。

※応募書類はホームページよりダウンロードしてください。

6. 応募期間

平成27年4月1日(水)～9月30日(水) (締切厳守)

7. 選考方法

当財団の顕彰事業選考委員会の選考を経て、理事会で決定します。

8. 通知・公表

11月中旬までに応募者及び推薦者に結果を通知すると共に、ホームページ等で公表します。

9. 授賞式

開催日は平成27年12月14日(月)を予定しています。(受賞者は必ず出席してください。)

受賞者には、表彰状及び記念メダルと顕彰金を授与します。

※授賞式終了後、活動内容について受賞講演をお願いいたします。

※受賞者については、いただいた経歴の一部をプロフィールとして使用します。

10. 申請書提出先及び問合せ先

〒142-0064 東京都品川区旗の台2-2-15 昭和大学7号館3階

公益財団法人 昭和大学医学・医療振興財団宛

電話：03-3783-6731 FAX：03-3785-7350

E-mail: igakusinko@ofc.showa-u.ac.jp

第1回「昭和上條医療賞」受賞者（平成26年度）

◎医療人育成部門 1件

テーマ：臨床研究コーディネーター（CRC）の育成への取り組み

中野 重行(なかの しげゆき)先生 大分大学医学部 創薬育薬医療コミュニケーション講座



新GCPの法制化にともなう臨床研究コーディネーター(CRC)の養成のための「CRC連絡協議会」を結成し、CRCの認定を日本臨床薬理学会に一本化し、認定CRC試験を開始されました。その後も、CRCの教科書の編纂やCRCを支援する組織を立ち上げるなど、わが国の臨床研究の円滑な実施と質の向上に欠かせないCRCの産みの親、育ての親として現在も活動を続けています。

◎地域医療貢献部門〈地域医療〉4件

テーマ：学校保健と地域に於ける活動

加納 治男(かのう はるお)先生 加納医院



大阪市西成区医師会、大阪市医師会学校医部の要職を長年務められ、地域医療、学校保健に大いに尽力されました。大阪市学校心臓検診の中に、日本で最初の川崎病検診を取り入れ、これを公費負担としました。また、厚生労働省に働きかけ、麻疹・風疹の2回接種、MR予防接種の実施を実現しました。以上の功績により、平成16年に「地域医療および学校保健活動」貢献功労者として、日本医師会最高優功賞を受賞されました。

テーマ：昭和大学病院近隣地区における地域リハビリテーション活動の推進

川手 信行(かわて のぶゆき)先生 昭和大学保健医療学部 理学療法学科



リハビリテーション医師として、「在宅障害者の生活支援」の確立を目指し、昭和大学病院近隣の3区の保健・福祉・行政と連携した地域リハ活動を推進しました。3区の関係者との「地域リハ懇談会」の継続的開催、品川区と連携した「リハ専門チーム」の主導、東京都の事業「区南部地域リハ支援センター」事業への参加、3区の「在宅高次脳機能障害」の支援、など在宅の障害者に対する多様な支援活動を行っています。

テーマ：大都会の貧困地域における医療

高 錫健(こう そくこん)先生 医療法人健仁会 健仁外科医院



横浜市の貧困地区で、社会的弱者に対する医療に長年にわたり大いに尽力されました。貧困やアルコール中毒など、地区特有の背景を持つ患者に対して、日々の初期医療に努められるとともに、地域のリーダーとして、様々な団体と連携して活動しています。地区の行政に働きかけ、医療保護や住民登録の申請を誘導し、依存症治療支援団体、生活支援団体と協力し、介護保険の定着や精神科医の参入等の支援を行っています。

テーマ：札幌市医師会家庭医学講座

松家 治道(まつか はるみち)先生 一般社団法人 札幌市医師会



札幌市医師会会長として、長年にわたり各種健康教育活動を積極的に指導し、札幌市民への健康教育活動と医療啓発活動に大きく貢献されました。家庭医学講座を年8回・計257回、市民健康教育講座を年31回・計954回、地域健康教室を年33回・計795回、市民医療フォーラムを計10回開催され、多くの市民の健康意識の向上につながりました。以上の功績により、平成18年に日本医師会最高優功賞を受賞されました。

◎地域医療貢献部門〈医療技術〉1件（グループ）

テーマ：世界初のカンプトテシン系抗がん剤・塩酸イリノテカンの開発

宮坂 貞(みやさか ただし)先生 澤田誠吾(さわだ せいご)先生 横倉輝雄(よこくら てるお)先生
学校法人 昭和大学 株式会社ヤクルト本社中央研究所 元株式会社ヤクルト本社中央研究所



3氏の研究チームは、長年にわたり協力して抗がん薬の研究に携われ、世界初のカンプトテシン系抗がん剤・塩酸イリノテカンを開発されました。植物（喜樹）成分のカンプトテシンの分子構造を変換し、その活性を検証する実験を繰り返して開発に至った本邦初の抗がん剤であり、現在では多くのがんの国際的な第一選択薬として、世界中の多くのがん患者の治療に貢献しています。